

春植物が動き出す

春にだけ地表に現れて花が咲き、実を結ぶと、地上から消えてしまう植物たちがあります。スプリング・エフェメラル(Spring ephemeral(春のはかないもの)、春植物)と呼ばれるもので、多くはきれいな花が咲くので、人目を惹きます。

落葉樹林の下は、冬から春にかけては地表まで日が当たり、小さな植物でも十分に日を浴びることができます。気温はまだ低く、霜が降りる危険もある季節ですが、晴れた日の日中は、地表の温度はかなり上がります。その光と温度を使って、1年に使う以上の栄養を作り、貯めるのです。生長に時間がかかり、繁殖も毎年はできませんから、長生きできる安定した環境も必要です。寿命は、決して「短命」ではありません。

第二樹木園はメタセコイア林で、自然界では見られない森ですが、科学園では春植物の宝庫です。



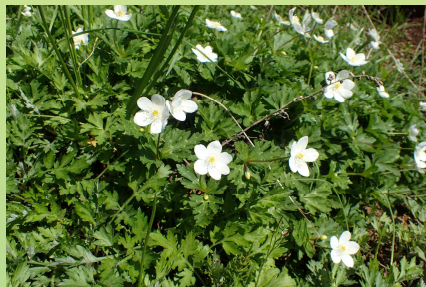
←カタクリは代表的な春植物です。かつては多摩地域にもたくさん見られましたが、現在はほとんど絶滅しています。科学園内では見られません。今あるものは、数十年前に植えたものの生き残りです。



アズマイチゲは、科学園内の代表的な春植物です。日が当たると大きく開きます。



イチリンソウは、近年増えています。アズマイチゲより遅く開花します。



ニリンソウは、株が大きく、花も多くなりました。

アマナ
今も増加
中



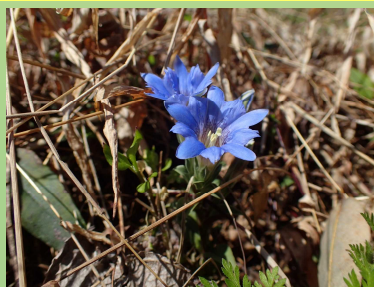
ジロポウエンゴサク
葉は早く出ますが、やや遅く開花します



↓キツネノカミソリは、葉が春にだけ出るので春植物のようですが、花は夏に咲きます。

春植物ではない

春に花が咲く小型の植物が春植物とは限りません。初夏から冬の過ごし方はさまざまです。



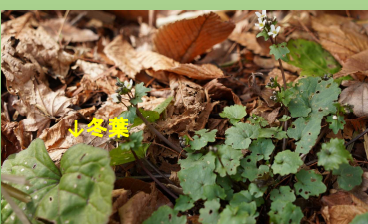
フデリンドウは秋に発芽する越年草(冬1年草)で、初夏には種子以外は全部枯れて残りません。



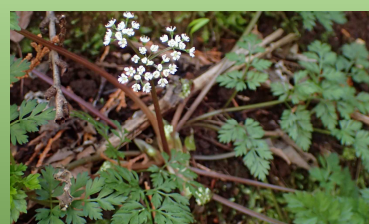
エイザンスミレ
スミレ類は夏には性質の違う葉を出し、夏も活動的な多年草です



ヤマルリソウは一年中葉をつ、「常緑」ですが、冬から春の葉と、初夏から秋の葉は、大きさも性質も違います。



ユリワサビは常緑植物、冬の葉は大型でワサビのようです。



セントウソウも常緑植物。見た目には葉の形は変わりません。

植物の1年間の「予定表」には、いろいろなものがあり、冬を使うかどうか、春をいつからいつまで使うか、種ごとに違ってきます。小型の植物は、樹木が作る光環境の下で生活するので、樹木の状態が予定表に反映されます。中には、暗い夏だけは使わない、という植物もあります。

花は当てにしている訪花昆虫に合わせる必要があるので、葉があるときに花が咲くとは限りません。

小型の植物には、小型だからできないこと、小型だからできることがあります。春植物という生き方は、その方法の一つです。

